

ふたばっ子とともに

R4. 6. 21

感染状況は少し落ち着きを見せていますが、学校では、コロナ禍の中での給食は続いています。

最近になって始めた一つの取り組みについてお伝えします。

「おいしい」を伝える

新型コロナウイルスの感染拡大が始まった2年前から子供たちは、給食の時には「黙食」を意識して食べています。

私は、マスクを外した児童の顔が見られる貴重な機会として、できる限り喫食中の子供たちの顔を覗きに、各教室を回るようにしています。

コロナ禍以前は、給食を食べている子供たちに向けて「〇〇は美味しいですか」とか「△△は好きですか」などと質問して、その答えや反応を確かめられました。でも、「黙食」を実施している今は、子供たちは、声を出して答えることができません。ただ、校内を回っておいしそうに給食を食べている子供たちを見ると、なぜか「おいしい？」と尋ねてみたくなります。

そんな時は、「声は出せないから、うなずいて答えてね。」と前置きをしてから質問するのですが、上の学年の子供たちは、それにしっかりと対応します。ただ、低学年の子供たちの中には、質問をすると「おいしい!!」と声を発し、満面の笑みを浮かべて答えてくれる子が、意外と大勢います。それが、低学年の子供らしい素直な反応です。でも、このコロナ禍の中では、それを「良し」とできないのが辛いところです。



無論、子供たちが、おいしいものを食べて「おいしい」と誰かに伝えたり、好きなものを食べて素直に「すき」と表現したりすることは、とても大切なことだと考えています。

そこで、「おいしい」を表現する「ハンドサイン」を決めて、それで答えるように、1年生の子供たちに提案してみました。その「ハンドサイン」は「サムズアップ(手の親指を立てて、相手に親指の腹を見せるサイン)」です。



最近では、1年生の教室に行って「おいしいですか」と質問すると、どの子もこの「サイン」で答えてくれます。もちろん「ハンドサイン」だけではなく、それぞれに笑顔や目の表情もつけて、自分の「おいしい」を表現する子が大勢います。中には「待ってました」とばかりに「今日もおいしいよ」と、私が教室を覗くと何も尋ねなくても「サイン」を出してくれる子たちも見られるようになってきました。

この取り組みをしてみて、自分の思いを表す方法をいろいろと考え、表現できるのはよいことだと、改めて感じました。

それでも、やはり一日も早く「子供たちが、どんな時でも、何も気にせず、自分の声や言葉で、表情豊かに思いを表現できる時」が来るのを願わずにはられません。

